



第42回STORMジャパンオープン選手権

11月1～4日/稲沢グランドボウル



松永裕美が史上初の3連覇 永野すばるは3年ぶり2度目

プロ、アマ合わせ男子864名、女子432名が参加したジャパンオープン。女子のクイーンズで、松永裕美(37期・ABS)が前人未踏の3連覇を達成すれば、男子のマスターズは、永野すばる(40期・相模原パークレーンズ)が3年ぶり2度目の制覇で、通算3勝目を挙げた。(主催:(公社)日本プロボウリング協会 特別協賛:株)ハイスポーツ社)



「優勝決定戦は10フレを前に勝負がついて逆に再決定戦への準備をさせてくれた」と勝者の綾を嘆いた川添



「最後のゲームはレーンの変化に対応できず悔しいけど、ここまで残れてよかった」とアマで準優勝の渡辺選手

▲3連覇の松永(左)と2度目の優勝の永野

クイーンズ

2連覇中の松永裕美が4位で決勝に進むと、ダブルエリミネーション1回戦は501、2回戦は480、さらに3回戦はアマの渡辺莉央選手を470:401で下すなど、盤石の内容で勝者ゾーンを勝ち上がった。2回戦で渡辺選手に3ピン差で敗れた姫路麗は、敗者ゾーン2回戦で女子のJPBA公認300号のパーフェクトを達成するなど順調に

勝ち上がり、3位決定戦での渡辺選手への挑戦権を手にした。

その対戦は、3フレからターキーの渡辺選手に対し、なかなか波に乗れない姫路は、7フレからようやくターキーを持ってきたが、渡辺選手は7フレからフォースで247:210と突き放し、優勝決定戦に進んだ。

優勝決定戦は、ダブルスタートで先行した渡辺選手だが、間に男子のゲームが入って予想以上に変化していたレーンに「自分の対応力のなさを感じた」と、合計4つのスプリットなどで152に終わり、2つのダブルで215とまとめた松永が、史上初の3連覇を達成、通算タイトルを16と伸ばした。

マスターズ

1位で決勝に進出した永野すばるは、ダブルエリミネーション1回戦で矢島純一との最終G、最終フレームにもつれる接戦を477:465で制して辛くも勝ち上がると、3回戦では2位で進出



「ゲーム負けても再決定戦というアドバンテージを生かすことができた。打球順的に僕が追いつけたけれど、ストライクを持ってこられたのがうれしかった」と永野

優勝決定戦は、前半ピハインドの川添が6フレからのフィフスで222:202と逆転で制した。勝者ゾーンの永野が敗れたために、勝負は再優勝決定戦へ。「前のゲームで、9フレからボールもアングルも変えて試せた」永野は、ターキーでスタート。1フレをスプリットの川添も2フレからターキーで追走。永野がピン差リードで迎えた10フレ、1投目ともにストライクのあと

川添の2投目は②⑧⑩のスプリット。2投目もきっちりストライクの永野が大会2度目の優勝を飾った。

●優勝決定戦

<女子>

松永 裕美	6	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	20	40	60	89	109	129	159	187	206	215	
渡辺 莉央	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
	26	44	52	60	80	98	107	126	143	152	

●再優勝決定戦

<男子>

川添 奨太	⑧	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	9	39	67	87	107	137	167	197	224	241	
永野 すばる	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
	30	59	79	99	119	139	169	199	229	255	

●優勝決定戦

永野 すばる	7	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	17	37	66	85	94	119	136	143	173	202	
川添 奨太	9	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	20	40	57	74	83	113	143	173	202	222	



「この大会はアマの優勝が多いので、スキを見せてはあげない」と思っていた。3連覇は史上初というところで、歴史上に名前を残すことができてうれしかった」と松永

アマチュア大会ダイジェスト

第47回全日本ボウリング選手権 11月16～17日 稲沢グランドボウル 男子は片山寛史選手が初制覇



女子は、予選を1884で1位通過の多賀谷優選手(群馬・ドリームスタジアム太田)が、決勝は558と苦しんだが、それまでの貯金を生かし、トータル3064で、6年ぶり2度目の優勝を飾った。2位で決勝に進んだ國本ひとみ選手(神奈川・厚木スマイルフィールド)は、決勝でわずかに差を詰めたものの、52ピン及ばず2位だった。

男子は、北海道から参戦の初出場・片山寛史選手(厚別パークボウル)が、予選(9G)を4位で通過すると、準決勝(3G)では705を打ってトップを奪った。片山選手は決勝(3G)も手堅く644とまとめ、トータル3247で余裕の逃げ切りを決めた。決勝で688と伸ばした63歳のベテラン・佐藤晃一選手(東京・高輪)が3176で2位に食い込んだ。



「6年ぶり2度目の優勝の多賀谷選手。準決勝、決勝はアジャストに苦労したけど、自分の投球に集中した」

JBC 第57回全日本大学ボウリング選手権 11月16～18日 キョーイチボウル宇治 男子・岡山商科大が2年ぶり2度目 女子・青森中央学院大5年ぶりのV4

大学日本一の座を争う全日本(西山・小山田・長谷川・鴻巣・小原・大下内)に941ピン差を付けるトータル15441で優勝した。

2人チーム戦の女子は、青森中央学院大学A(高橋・斎藤)と千葉商科大学(菅原・坪井)の優勝争いとなったが、準決勝



▲優勝の青森中央学院大学(左)と岡山商科大学

でリードを広げた青森中央学院大学Aが、トータル6230で優勝、千葉商科大学は187ピン差の2位だった。

JBC 第52回全日本実業団ボウリング選手権 11月22～24日 東大和グランドボウル エナジックが4年ぶりの王座奪還

54チーム(5人チーム)が参戦して、今年度実業団ナンバー1の座を争った。予選2回戦で3396を打って大きなリードを奪った沖縄・エナジックインターナショナル(下地・我那覇・石嶺・幸喜・村濱)が、その後



▲独走で優勝のエナジックインターナショナル